

## 事務事業評価表

### ○基礎情報

課名		環境保全課	作成責任者
施策目標	30	快適で安全な生活環境を守る	添田 裕巳

常勤職員		常勤職員以外			総従事者
管理職	左記以外	再任用短時間	臨時職員	非常勤嘱託職員	総人工
1 人	9 人	0 人	0 人	2 人	10.73 人

時間外勤務時間	
総時間	一人あたり月平均
923 時間	8.5 時間

(施策のねらい)

## 1 施策指標と実績(Do)

施策指標名	4次実施計画の 現状値	目標値 (R2年度)	実績値		
			H28年度	H29年度	H30年度
揮発性有機化合物(VOC)大気排出量削減率	50.50%	30.00%	50.5%	24.6%	38.1%
水質排水規制基準適合率	94.7%	100%	94.7%	85.7%	78.6%
工場・事業場定期立入調査件数	84件	80件	84件	110件	84件

1	市民・事業者などの意識やモラルの向上
2	地域の環境保全活動や美化活動の促進と支援
3	生活環境の向上
4	0
5	0
6	0

(評価の見方) **S** 事業の指標を概ね(80%)達成し、成果があがった

### C 事業の指標は達成できなかったが、成果は今後見込める

## 2 未着手事業(計画していたが未実施に終わった)

**A 事業の指標は達成できなかったが、成果はあがった** **B 事業の指標を概ね(80%)達成し、成果は今後見込める**

**D 事業の指標を概ね達成したが、成果は見込めない**    **E 事業の指標を達成できず、成果も見込めない**

**実績なし** 事業実施の体制は整えていたが、実績がなかった(実施計画期間中で当該年度は実施予定のないものを含む)

## 2 政策的事業の実績(平成30年度)

事務事業の取組結果と成果（効果）（Plan / Do）											Check		Action	
No.	事務事業 （第4次実施計画）	施策	従事 者数	会計 区分	H29予算(円) H29決算(円)	H30予算(円) H30決算(円)	何・誰に対して どう働きかけた結果 どうなったか(生ま (対象) (手段・方法) れた成果・効果)	事務事業の指標	H30目標値	H30実績値	評価	取組 時間	事務 改善	休・ 廃止
1	環境保全啓発指導 事業	1	1.07	一般	1,824,000 1,739,850	1,810,000 1,716,502	小中学生を含めた市民と共に、大気環境や水環境の調査等を通して、環境保全の意識向上が図れた。	市民参加型事業の参加 人数	50人	103人	S	変動 なし		
2	美化推進事業	2	2.48	一般	12,038,000 12,034,662	12,397,000 12,393,104	市民に対して様々な媒体を使い、美化意識の高揚を図り、海岸清掃や地域清掃等を通して、ごみ一つ落ちていないきれいな海岸、きれいなまち並みの形成に取り組んだ。	海岸及び街頭キャン ペーンの実施回数	4回	3回	A	変動 なし	●	
合計					H30 予算(円) H30 決算(円)		14,207,000 14,109,606							

3 実施計画事業(政策的事業(政策的事業のない課はいは一般管理事務等))の総括評価

人工・事務事業費・事務事業指標達成度の結果にかかる分析(Check) / 今後の展望(Action)

環境保全課の第4次実施計画事業の政策的事業は、「環境保全啓発指導事業」、「美化推進事業」の2事業である。  
「1環境保全啓発指導事業」の評価結果については、市内中学校への環境学習や茅ヶ崎地区相模川をきれいにする協議会と共催した河川生物相調査などを実施したことで、小中学生を含めた幅広い市民に対し啓発することができ、かつ、目標値を超える実績となったことから「S」評価とした。  
「美化推進事業」の評価結果については、美化キャンペーンクリーン茅ヶ崎が荒天のため1回中止となってしまう「A」評価となってしまったが、他のキャンペーンや海岸パトロール、その他マナー啓発事業、補助金事業については順調に行うことができ成果を出すことができた。今後もたくさんの方々に参加してもらえよう様々工夫を行い、事業を進めていきたいと考える。  
環境保全課の事業は、環境汚染事故や公害への対応が主なもので、全庁的にも苦情受付件数の多い課である。公害苦情への対応は、受身的な要素が強く、発生すれば、直ちに、課全員で対応することになるが、状況によっては時間外勤務の増大を招くことになる。このことについては、環境への影響を監視するための調査、公害関係法令の遵守状況確認のための立入調査及び届出等の審査など、通常業務での公害の未然防止を図る取り組みが、最終的に時間外勤務の削減に寄与するものとする。

4 Actionにチェックの入った今年度「事務改善」を行う事業

No.	事務事業(事業がない場合は－)	事務改善の内容
2	美化推進事業	これまで、「美化キャンペーンクリーン茅ヶ崎」は5月末及び7月末の年2回開催している。近年の異常気象に伴う猛暑により盛夏の時期の実施を見直す必要も考えられる。一方、民間企業との共催で秋に「特別美化キャンペーン」を実施していることから、盛夏の「美化キャンペーンクリーン茅ヶ崎」を「特別美化キャンペーン」に統合する取組の検討を行う。
－	－	－

5 Actionにチェックの入った今年度「休・廃止」を検討する事業

No.	事務事業(検討事業がない場合は－)	休・廃止検討の理由(1事業も検討できない場合はその理由を記載)
－	－	環境保全啓発事業の目的である公害の未然防止や河川等の水質保全などは、環境保全に対する意識高揚が不可欠であり、小中学生を含めた幅広い市民や事業者との接点が多い市が事業を実施することが効果的であるため、事業の休・廃止は困難と考えている。
－	－	－

6 働きかたの見直しにおける取り組み結果(28-30年度の3か年の取り組みの結果、得られた生産性向上などの成果)

取り組みの結果
職員の時間外勤務に着目すると、平成30年度は総時間で923時間、一人当たりに換算すると月平均8.5時間であった。前年度(1626時間)との比較では約700時間の減であったが、これは平成29年度より神奈川県より移管を受けた保健所業務(浄化槽関係)が落ち着いたと考えられることと、スケジューラーを利用した現場調査の集約化を実施したことにより各担当者の事務の効率化を図ることができ、同時に各業務の進捗管理を行ったことで、担当者間の情報共有や事務分担の工夫により、職員の負担軽減につながった。今後も引き続き、職員の健康管理の観点から適正な勤務時間の管理に努めます。